

○議長（小川 廣康君） 日程第1、会派代表質問を行います。

この際、申し上げます。

発言時間については、申合せにより、時間内に終わるように御協力をお願いいたします。

また、関連質問につきましては、通告者と同会派の議員とし、本質問の内容と関係のあるもので、本質問者の持ち時間内としておりますので、そのように御了承願います。

本日の登壇は、1会派を予定しております。

それでは、通告により、順次発言を許します。新政会、4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 皆さん、おはようございます。

新政会の春田新一でございます。

本日は、会派代表質問をさせていただきます。

まず初めに、新型コロナウイルスの感染拡大が収束の兆しの見えないまま、新しい年を迎え、市民の皆様方には生活様式が変わった新年となりました。

また、今年に入って、長崎県でも緊急事態宣言も発令され、本市においても感染防止対策の観点から、新年の行事も中止あるいは延期になるなど、経済活動は低迷し大きなダメージを受けています。

本市では、19例目の感染者が現在まで確認をされ、感染防止対策で長い長いトンネルを抜け出せないまま、春を迎えようとしております。市民の皆様の協力の下、一日も早い収束を願うばかりであります。

また、新型コロナウイルス感染が収束の後には、全ての市民が生き生きと健康で、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりに今以上にスピード感を持って進めていただきたい。市長にお願いをしておきます。

さて、4年前の市議会議員一般選挙において、市民皆様方の負託により議会へ送っていただき、議員として活動させていただいておりますことに、この場をかりまして感謝申し上げます。

私たちの任期も本年5月末をもって終わりとなります。今日まで養ってきた思いが形になるよう、本日は会派代表質問を比田勝市長、永留教育長にぶつけてみたいというふうに思っております。

それでは、さきに通告をしておりました2項目について質問に入ります。

1項目めの第2次対馬市総合計画では4点通告をしております。

4点目につきましては、初村議員が関連質問をいたしますので、よろしく願いをしておきます。

それでは、1項目め、第2次対馬市総合計画について。

このことにつきましては、前期計画の5年間が終了し、今年度から後期計画の5年間が始まり

ます。前期計画での基本的な考え方は継続をして新たな課題について見直し、後期計画が進められるというふうに思います。

計画の中で優先的に取り組んでいただきたい3点について私のほうからお伺いをいたします。

その1点目ですが、対馬人材の確保と仕組みづくりについてお尋ねをいたします。

皆さんも御存じのように、本市では人口減少や少子高齢化が進み、1次産業や地域づくり、子育て、見守り、健康づくり、清掃活動、環境保全活動など島づくりを担う人材が不足をしているというふうに思います。宝の島対馬での豊かな暮らしを維持するため、郷土愛の強い人材を確保しなければなりません。このことが最優先課題だというふうに考えます。この育成するための取組についてお伺いをいたします。

次に、2点目です。

地産・地消の推進について伺います。

島内にひと・もの・金が循環することで、様々な相乗りが効果が発揮され、自立と循環の宝の島になるというふうに考えます。

対馬産品が島外の商品よりも価格が高い場合が多く、対馬産品の購入、消費が進んでない現状であると考えます。島内のものは島内で消費できるよう、地産・地消の仕組みをつくっていただきたい。

このことにつきましては、何回となく同僚議員の質問もあっております。課題に取り組み、先に見える事業構築を進めていただきたい。市長の見解をお尋ねいたします。

次に、3点目です。

島内の移動手段の確保について伺います。

広い対馬において、車を持たない市民や観光客の移動手段の確保は、本市において最重要課題の1つであるというふうに思います。

今後において、高齢化が進むことで、自家用車での移動が困難になる人が増えていくというふうに考えます。地域に応じた最適な交通手段の取組が重要になってくる、まあ、インフラ整備を含め、移動手段の確保をどのように構築をされていこうと考えてあるのかお伺いをいたします。

次に、2項目めでございます。

対馬の郷土芸能文化と保存の継承についてということで、教育長にお尋ねをいたします。

郷土芸能、対馬盆踊り地域の伝統を守り続けるための人材確保と手厚い支援策についてお伺いをいたします。

国境の島、対馬では、地理的な特性や古くからの大陸文化の影響を受けた対馬独自の文化が各地域ごとに固有の慣習や風習として生活に根差し、今日まで受け継がれています。

しかしながら、高齢化の進行や若者の島外流出による人口減少が進み、今後、郷土芸能の継承

が危ぶまれる実情だというふうに思います。

継承する人材不足を解消するための施策として、市内の各学校において、こどもたちへの郷土学習に取り組み、郷土の歴史を知り、学び、郷土愛を育み、伝統行事を担う後継者を育てなければならないと思います。

また、新聞等で報道されています対馬の盆踊が国の重要無形民俗文化財に新たに指定されました。

長い間、盆踊りを継承しておられます対馬盆踊保存連合会の皆さんをはじめ、地域の皆さんの長年の努力と絆があったことだというふうに思っております。

対馬市教育委員会としても、認識を新たにして、継承の一環として盆踊りのリーフレット作成や学校、公的施設への配付に取り組み、今後の後継者育成に努めていただきたいと思います、教育長の見解をお伺いいたします。

以上、2項目4点について私のほうから答弁を頂きます。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おはようございます。

新政会、春田議員の質問にお答えいたします。

初めに、第1次産業の担い手確保についてでございますけれども、新規就労者募集の取組として、対馬市内における農林水産業合同企業面談会及び新規参入者説明会を開催いたしました。

また、年間を通して、都市部における移住相談会、企業相談会への出席、参加企業への助成など新規就労者の確保に取り組むとともに、新規就業者には、就労継続のために各種の支援を実施してまいりました。

新規就業者の直近5年間の平均は、農業は5.6人、林業は8人、水産業は7.8人という結果にとどまっております。これらを踏まえまして、農業におきましては引き続き、農業次世代人材投資事業や長崎森林づくり担い手対策事業などの補助制度を活用しつつ、農地と空き家と農業機械等を一体的にあっせんする就農パッケージ方式を進め、新規就農者数の拡大を図ってまいります。

林業におきましては、豊富な森林資源を活用しやすい施業を促進し、地域経済が潤うことにより林業の後継者確保に努めてまいります。

水産業におきましては、漁業就業実践研修による経営者育成は一定の成果が表れているものの、大型のイカ釣り漁業や定置網、まき網などへの従事を目的とした従業者育成研修は、十分な成果には至っておらず、安定した雇用の確保が課題となっております。このため、継続して研修制度の周知に努めながら、外国人による特定技能制度を活用した人材確保も視野に入れた取組を展開してまいります。併せて、操業安全、低コスト、高付加価値等の魅力ある、もうかる漁業の確立

のため、漁港漁場整備事業等による就労環境の改善、様々な資源管理等について官民連携した取組強化に努めてまいります。

また、第1次産業の担い手として、島外からの移住を希望する方には、まずは農林漁家民泊を体験していただき、直接生産者からの農林水産業の現状と魅力を知っていただくことで、担い手確保を図ってまいります。

今後も、関係機関と協力して様々なツールを活用しながら対馬の魅力を発信し、島外からの移住促進を図ってまいります。

地域づくり人材確保のこれまでの取組については、市民活動団体の育成支援や、域学連携推進事業による島おこし実践塾などを開催し、人材の育成・確保に取り組んできたところであります。

さらに本年度から、地域づくりを併せたコミュニティ支援を行うため、新たに島おこし協働隊員を3名雇用し、対馬北部・中部・南部にそれぞれ1名を配置したところであります。

また、同じく本年度からしまづくりSDGsを担える実践型人材の育成を図るため、域学連携で培ったネットワークを活用し、市民に対して分野ごとの教育機会や学び直しの機会を提供するため、対馬グローバル大学を開講しております。地域づくり人材の育成確保については、長期的かつ幅広い取組が必要であり、今後も市民や市民活動団体、ボランティア団体等の意見を聞きながら取組を進めてまいります。

次に、地産・地消の推進についてでございますが、農林産品については平成16年頃から島内において直売所が増え始め、令和元年度の売上額は約4億円に上がっております。

また、学校給食においては、地場産品地産地消推進事業の活用により、子供たちへの対馬産の農林水産物を提供しております。今後は、給食用野菜の生産団体立ち上げ支援を進めてまいります。また、農協直売所では、SNSを用いた情報発信を開始している状況であり、今後の直売所の発展を支援してまいります。

なお、野菜、果樹の生産規模拡大を目指す農家の農地借入れ支援、機械導入支援や栽培指導を行うとともに島内流通の構築を図り、地産地消の推進に努めてまいります。

水産物における地産地消については、日本有数の水産資源を有し、多種多様な魚種が水揚げされているにもかかわらず、島内流通及び消費が停滞しております。特に、アマダイ、アカムツ、アナゴ、マグロ等については、市内の小売店や飲食店へ流通することが非常に少なく、地元でありながらその価値が認識されにくい状況となっていることから、まずは対馬の魅力ある水産物について地元の方々に消費を促しながら、その良さを再認識していただく機会を増やすとともに、漁業者の収益につながるよう流通システムの構築に向けて取り組んでまいります。

その取組といたしまして、新型コロナの収束後に、農林水産物の生産者に御協力いただき、対馬の農林水産物を市民の皆様が求めやすい価格で幅広く購入していただくためのイベントを島内

2か所で計画してまいります。また、島外の皆様にも水産物のPRを活性化することで、需要喚起を促し、対馬の大きな魅力である食をアピールしながら、自然・歴史とともに対馬観光の魅力につながるよう、横断的な連携を推進してまいります。

3点目の島内での移動手段の確保策についてでございますが、平成27年に本市の公共交通体系を維持、改善するためのマスタープランとして対馬市地域公共交通網形成計画を、平成28年に具体的な路線や運行等の詳細を定めた地域公共交通再編実施計画を策定し、効率的にバス路線を運行するため、スクールバスへの混乗、乗合タクシーへの切り換え、地域の協力によりますコミュニティバスの導入など地域公共交通の維持改善に努めてまいりました。民営の市営路線バスは33路線でございますが、そのうち黒字路線はわずかに2路線だけであり、赤字路線については、市からの補助金などで損失額を補填している状況にあります。

今後、利用者が減少し、赤字が大きくなった路線については、路線の廃止や乗合タクシーへの切替えなど見直しをする必要も出てまいります。

また、高齢者の免許証返納の増加等で公共交通のニーズも高まっておりますが、通院や買い物支援等、地域によりそのニーズも多様化しており、きめ細かな検討が必要であります。そのためには、公共交通維持の面からだけではなく、公共交通以外による移動支援等の面からも検討を進めるとともに、現在、実証事業を進めておりますが、自動運転機能を有した新たな交通システムの確立も目指してまいります。

私のほうからは、以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） おはようございます。

新政会、春田議員の質問にお答えします。

郷土芸能の保存・継承についてでございますが、今年1月、国の文化審議会によって、対馬盆踊保存連合会が継承している「対馬の盆踊」を重要無形民俗文化財に指定するよう、文部科学大臣に答申されました。

対馬の盆踊は、江戸時代から盛んに行われ、明治期末でも島内80余りの地域で踊られていたと言われております。しかし、時代の流れに伴う生活様式の変化や若者の島外流出、継承者の高齢化などからその数は減少の一途をたどり、現在では5つの地区でお盆の時期に踊られているだけです。

今後は、対馬盆踊保存連合会とも連携を取りながら、対馬の盆踊を絶やすことなく、途絶えた地域の盆踊りの復活についても働きかけていきたいと考えております。

また、平成3年度から毎年開催されておりました対馬島郷土芸能発表大会も、令和元年度の第29回大会をもちまして中断しています。やはりこちらも、後継者不足による出場者や団体数の

減少などが影響しているようです。

議員御指摘のとおり、地域の伝統を守り続けていくためには、まずは人材の確保が必要不可欠です。対馬に残る貴重な伝統行事など、無形の文化財を次の世代に引き継いでいくための継承者の育成はまさに喫緊の課題であります。

第2次対馬市総合計画に上げられている4つの挑戦の中にも、「人づくり」、「ふるさとづくり」への挑戦が含まれております。

教育委員会としましては、学校でのふるさと学習の充実など、地域を愛する心豊かなこどもを育む教育を基本とした人づくりを、また対馬固有の文化財の保存、活用及び地域の特性を生かした生涯学習の推進によるふるさとづくりを積極的に進めてまいります。

とはいえ、伝統文化の継承は行政の力だけで出来るものではありません。何よりも、市民皆様の御理解と御協力あってのものだと考えます。市民一人一人が対馬の伝統文化の価値を理解していただき、それぞれの立場、それぞれの方法で御協力いただきたい、対馬市全体で守っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 答弁ありがとうございました。

それでは、順を追って整理をしていきたいというふうに思います。

まず1点目の、対馬の人材の確保とその仕組みづくりについてということで質問いたしました。

市長のほうから答弁は頂きましたが、やはり、地元でのこの1次産業、農林水産業が衰退をしていく状況をそのまま、まっ、見過ごしていくんじゃないくて、取組を強化していくということも答弁の中から分かったわけですが、なかなかその細かい仕組みづくりを行っていくようなところまで行っていないんじゃないかなあというふうに思います。

それがなぜそうなるのか、やはりその専門職、まあ、役所においても専門職の方が、やはり各漁業者の下に足を運んでいろいろな話を聞いたり協議をしたり、そういうことをすることで先に進むんじゃないかなというふうに思うんですが、市長の答弁は、今後も継承していくために努力をしていくんだという答弁の表れだったというふうに思いますが、やはりそこを少しく変えていかなければ、なかなか実際に、本当に行政と市民と職に合ったところがまだまだこうはっきり見えてこないんじゃないかなと。ただ単に対馬では第1次産業は漁業、農業ですよということはよく皆さん分かりますが、その具体的なことをきちんとしていかなければ、漁業者の方、農業者の方も全然分かってないんじゃないかなというようなところまであっているいろいろな批判が出てくるわけですから、そこら辺を実際に今後どのように取り組んでいかれるのか、市長のほうにお伺いをするんですが。いわゆる、私、ほか何名かの議員さんもいらっしゃいますが、やはり専門職

が必要じゃないか、ここまで人口も減少し、いろいろな予算を組む中で、やはり専門職がおってこそいろいろな、漁業者あるいは農業者の方の経営につながっていくんじゃないかというような話も出ております。そういうことも踏まえて、今後、市長のその施策について細かい仕組みづくりをこうするんだということを、あればお聞かせ願いたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 第1次産業等について、専門職が必要ではないかというような御質問であつたかと思います。

このことにつきましては、これまでも数度同じような質問等が出てきております。

ただ、その中でもこちらのほうといたしましては、大変このことは重要なことなんですけども、まず1点目といたしまして、市のほうで水産、そして林業、農業といったような専門職を抱えていくことは、今この職員の削減が大きく求められている中で、なかなか厳しいものがあるということが1点でございます。

そこで、今、県のほうにはそれぞれ水産・林業・農業等の専門職の方がいらっしゃいます。そういうことで、対馬振興局のほうとも連携を密にしながら、これらの対馬の第1次産業の活性化を目指してまいりたいというふうに考えております。

御理解をお願いしたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 難しいことはよく分かるんですが、やはり県のほうも女護島にですか、ありましたですね。今もう振興局のほうに一緒に入っておられます。漁業者の方にとっては、女護島にあったときの所長さん、あるいはその担当の方といろいろ交えて話をしながら流通の問題、漁獲の問題、それからブランドの問題、そういうのもいろいろ勉強して、やっと地についてきたかなというようなところではありますが、なかなか、また特に追い打ちをかけるように、コロナでこのブランド品が売れないというような、今、状況であります。これは致し方ないかなというふうに思いますが、これが、コロナウイルスが終息した後に、そういうようなところをやっぱりこう持っていけないと所得につながっていかないのではないかなというふうに思います。

やはり県のほうからでも、派遣が、水産業について、農業について、私は、できるというふうに思いますので、そこら辺も今後、県と協議をしながらやっていく必要もあるんじゃないかなというふうに思いますので、その辺にも市長取組を強化していただきたいなというふうに思っております。

それから、建設業につきましては、人材確保、後継者がいないということで、若者が育ってこないというような状況の中で企業説明会あるいはいろいろな現場見学会、努力をされて地元養成

をしていこうと、いう表れだろうというふうに思っております。

そういうことで、まずまず、建設業については、若者も見受けられるようにあります。そのような状況で、やはり一体となって第1次産業あるいは公共事業、こういうものを一体としてやっていかないと市の財政にも厳しいものが出てくる、また皆さんの所得も安定をしてこない、いうようなところですから、その辺の分析をされながら1つになってそういうことがやっていかれるように、別々にやっていくんじゃなくて一緒にやっていく、そうすることで地産地消にもなってくる、つながってくる、そういうことも今からは視野に入れてやっていかなければいけないのではないかなというふうに思っております。

また、農業につきましては私1回質問に取り上げましたが、その事業組合ですね、事業組合も設立をされて繁盛期には人材派遣もできるような、そういうところが今、五島市でやられております、こういうことにも少し行政側も力を加えてやっていければ、また新しい雇用が見いだせるのではないかなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

私は、前回、前々回ですかね、この特定地域づくり事業組合というのは質問いたしました。市長の答弁は、五島市には五島市が取り入れましたがというような話でしたが、対馬ではまだまだその取組がなされてない、今後どういうふうにしていこうと思ってるのか、少しお聞かせをいただきたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 特定地域づくり事業協同組合につきましては、この令和2年度のほうは、各事業団体のほうに1回説明はいたしております。しかしながら、なかなか今、自らやろうというような団体がございませんでしたけれども、それではなかなかこの雇用が発展しないというようなことで、この令和3年度につきましては、ぜひともこの特定地域づくり事業組合を立ち上げてまいりたいということで、これ強く、かつまた再度、事業者団体等にも働きかけを行ってまいりたいというふうに計画しているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） よく分かりました。

そういうふうにして、そこもやはり、先ほど言いましたように、農業の専門職がいらっしゃれば、その方が足を運んで動いていって、農業者の皆さん方との意見交換あるいは事業に関する説明、そういうのがきちんとできて皆さんが分かっているんじゃないかなというふうに思いますので、今市長が言われましたように、そこに力を入れて今後やっていただきたいというふうに思っております。

そして、地産地消もこの総合計画の中の全体で、やはり人材確保というのは大事なことだろうというふうに思っております。



また、対馬市ではどこもそうなんです、人口減少が非常に進んでおります。2025年には2万5,000人になろうというような推計も出されておりますが、これを2万8,000で止めるんだというような施策も打ち出されております。そういうことにも力を入れられてやっていただきたいなというふうに思っております。

以上、1点目はそれで終わります。

次は、2点目でございます。

このことにつきましては、先ほども申し上げましたように、同僚議員からも質問は何回となくされております。

非常に難しいのが、私の聞く範囲では、やはり今のこの地産地消で、漁業者の方は、ブランド品はほとんど向こうに出荷されるわけですが、農業のほうは、地元の地で作ってそれを学校給食で使っていただく、というようなことが少し進んでいるのかなというふうには思っておりますが、なかなかこの給食に使う分だけの材料がそろわないというような状況にあるんじゃないかなというふうに思っております。これも、やはり農業者の方々と一緒になって協議をしながら、いろいろな方面で、お互いに力を合わせてやっていく必要があるのではないかなというふうに感じているところであります。

やはり、例えば大根、玉ねぎ、白菜といったものを1農業者がつくるんじゃなくて、いろいろな方面で作って併せてそれを地産地消として給食に使ってもらい、またスーパーに卸してそれを買っていただく、そういうものが地産地消の取組になってくるわけですから、そこら辺もやはり生産者と給食センターの担当の方と話をしながら、どういうものがどういう季節にどれだけとれるのか、そして安定した供給ができるのか、そこら辺も調べる必要があるというふうに思います。

私が知ってる範囲では、賀佐のゴボウですね、賀佐ゴボウ、これ対馬でも有名なゴボウですが、やはり給食センターで使っていただいているということで、私も現場も見せていただき、給食センターにも伺ったわけですが、なかなか材料がそろわない、それと太さもそろわないということで、まあ、給食センターには機械がありますので、機械に通らない、機械からまあ、曲がったものは通らないというような、そういうような条件があって、なかなかスムーズにいけないようなところもありますので、そこら辺の解消も協議をしながらしていけば何とかなっていくんじゃないかなというふうに思います。

作る人、買う人、食べる人、そこらへんが上手くいっていないので地産地消が進んでいないというのが今の現状じゃないのかなと思いますので、そこら辺を皆さん一緒になって取り組んでいけば、これは、地産地消は推進されるんじゃないかなというふうに思いますので、そこら辺も、教育委員会もそうですが、行政側も一つになってやっていかなければいけないというふうに思っ

ております。

先ほど、市長のほうから農業団体の担い手のほうで答弁がございました。これもそういうふうなところにもっていけば、その協同組合が設立されるようになれば、そこでいろいろな取組ができて推進がしていけるのじゃないかなというふうに思いますので、そこら辺にも頭に置かれて、今後進めていただきたいなというふうに思っております。

それでは、2点目もそれで終わります。

3点目に行きます。

島内の移動手段の確保についてということで、答弁を頂きました。

この対馬は特に広い島でありますので、車を持たない市民やあるいは自主返納された高齢者の方、買い物、病院、大変な思いだろうというふうに拝察をするわけですが、やはり、先ほど答弁にございましたが、地域から乗合タクシーあるいはバス、そういうものを出されるような仕組みづくり、そしてまた、今の志多留でできておりますが、やはりまだまだこの対馬の中で、地域的には何か所か必要なところが今、現在出てきてるんじゃないかなというふうに思います。そこら辺も地域と一体となってやっていく、まあこれも、先ほど言いましたように、地域に足を運んでそれで地域の話をいろいろ聞きながら、まあ、地域の方も話に乗らない方もいらっしゃる。そこをうまく具合話を持っていって進めていかなければ、これは、なかなかその地域でバスを動かすということは、なかなか、進まないでしょうから、志多留の実証実験の折を考えながら、また、困った地域での乗合バスというものも今後、増やしていかなければいけないというふうになります。

それと、私、いろいろな地域で話を聞きますと、福祉タクシーの推進が少ないような気がするんですね。やはり、そこにも行政が関わりを持って福祉タクシーの許可が取れるような、何か仕組みは、まあ、いろいろ難しいそうであります。運輸省あるいは自動車学校、そういうところできちんとした講習を受けなければいけないといったような状況、あるいはまた車の改造、そういうのがありますので、そこら辺の行政としてできる範囲の、助成といいますか、協力といいますか、そういうものができるかできないかを少し市長にお尋ねをいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 福祉タクシーの件につきましては、私もまだまだ勉強が足りないというような状況で、満足な答弁ができないということで、もし分かるなら、担当部長のほうに分かる範囲で答えさせていただきます。

○議長（小川 廣康君） 福祉保険部長、古里正人君。

○福祉保険部長（古里 正人君） 春田議員の御質問にお答えさせていただきます。

申し訳ございません、私も福祉タクシーにつきましては、個人で営業されている状況でござい

まして、市が認可する等というのがございませんので、詳細のことについては把握しておりません。申し訳ございません。ちょっとその辺については勉強させていただきたいと思っております。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 個人事業の問題になってきますので、行政はあまり関わっていないというような今の状況ですが、やはり乗合タクシーとかその福祉タクシーが今から普及してくるんですから、やはり、それは、分かりませんじゃなくて、少し協力をしながら皆さんといろいろな、国土交通省あたりに話を聞かれたり、説明ができるようにしておかなければいけないんじゃないかなというふうに思っております。

私も勉強不足で、そこら辺分かりませんので、また国土交通省とかそういうところの資料を取り寄せながら、自分も勉強したいなというふうに思っております。

各地域に行かれますとその話が多いんですね。やはり、まあ、そうだな、高齢化が進むことによってそういう苦情がいっぱい出るんだなというようなことも頭の中にいっぱい詰まるわけですが、なかなかこれを回答することもできない、私たちも手を取ってやっていくこともできないわけですら、なかなか先に進まないんですが、福祉タクシーについても今現在、1集落から私が講習に行行って取ってこうというような今、話までは出ていますが、なかなかこれがまあ、自己負担ということになってきますので、大変御苦勞されるんですが、その辺も今、市長も担当部長も申し上げられましたように、まだまだちょっとそこらへんを把握してないということです。みんな一緒になってそういうことを進めていかなければ、この対馬で高齢者になってどうして生きていくのか、どうしたら買い物に行けるのか、そういうこともより安堵にならないわけですから、やはりそこも一緒になって取組を進めていかなければいけないというふうに思っているところでございます。

それから、本線の公共交通について。

公共交通も今、先ほど、この第2次総合計画の中にも入っておりますが、なかなか、便数は出ても客がいない、採算が取れない、まあ、そうだろうというふうに思います。人口がこれだけ減少して高齢化率が高くなっているんですから、なかなか県道、市道のバス停まで行くのも困難な人も結構おられるんじゃないかなというふうに思います。そういうことで、乗合タクシーとか、この地域でつくる乗合バス、そういうものが今から普及をしてくるんじゃないかなというふうに思うし、また免許自主返納も、そういうことが優遇していかなければ自主返納も進まないわけがありますので、これも一体となって取組みをしていかなければいけません。なかなか難しい問題になってきますが、そこら辺もよく理解をされて地域に入られて、地域の意見を聞きながら、今後進めていただきたいというふうに思っております。

特に病院、買い物。まあ病院はある程度公共交通バスの時間で間に合うようなところはありま

すが、買い物ですね。買い物が自由にできない、家に閉じこもりになってしまう、地域包括もそうなんです、やはりそこが進まない。買い物客をスーパーまで送ってあげば、これは違反になる。料金はもらわなくても違反になる。また、乗せてもらった人は、料金の代わりに何かしようという、これも違反になる。というようなことで、なかなかまい具合にいかないわけですよ。だから、やっぱり福祉タクシーとか、そういうタクシーに力を入れていかないと、高齢者の方は大変苦勞されるんじゃないかなというふうに思っておりますので、そこら辺もよろしくお願いをしておきます。

3点目終わります。

次に、2項目めの郷土芸能、対馬盆踊について教育長のほうから答弁がございました。

それで、教育長の言われるとおり、このことについても指定をされたということで、対馬で初めてのことであります。民俗芸能、これは、先ほど私も言いましたように、地域の絆があってここまで来たものと思っております。

今から後継者不足と若者の島外流出で、なかなかこれも、継続していくのを、継承していくのが難しいというところも出てきます。これを今から、もう、指定を受けたときからやはり、もう、また始まったんだということでやっていかなければ先には進まない。絆を巻き替える、私の言葉では絆を巻き替えるというような意味で、交代をする時期が来てるわけですから、今やっていかないと、せっかく指定をされたわけですから、対馬の魅力ある盆踊り、4地区ですよ、4地区、まあ、ほかの地区もありますけど、保存に入ってるのは4地区ということで、今指定をされました。

これも、今後、ユネスコのほうに世界遺産登録ということで今後なっていくんじゃないかなというふうに私は思っております。

2021年の3月末、今月の末ですね、事務局に提案書を提出、それから2022年の10月評価機関に勧告と、2022年の11月に政府間委員会において、審議、決定ということになって今進んでおります。

こういうこともなっていくわけですから、やはり今しっかりとしたもの、根づいたものをしっかり守っていかなければ、対馬も危ぶまれるということになりますので、教育委員会としては、対馬の子供たちにこれを伝承芸能を教えていくんだ、学校の教材としてやっていくんだということもよく分かりますが、今以上に、どうしたら子供たちが継承していけるようになるのか、そこら辺の今やってこられた課題について教育長、課題とは、今からはこうしますというような、何か、意気込みがありましたらお願いします。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 学校の中でどうしていくか、子供たちにどう継承していくかというの

は大変難しい問題だと思っています。

学校の教職員にそういうものを指導できる者はおりませんので、どうしても、地域の方の御指導を受けるであるとか、御協力を頂きながらやっていかなければいけない。そういう学校も現在2校ほど、地域の盆踊りを学校の総合的な学習の中で取り組んでおります。こういうものが継続されるように、また、そういう、地域の方で指導くださる方がいらっしゃれば、そういう郷土芸能についても継続していけるような働きかけをしていきたいなというふうには考えております。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） これは、まずまず学校の中では少し難しい、生涯学習において、また放課後子供教室においてそういうものができればというなという教育長の御意見でございます。

やはり、その、継承されている保存会の方々の協力がなければできないわけですから、そこら辺も今後やっぱり、この、指定をされたことも踏まえて協議をしながら、今後こういうふうに変えていこうというような気持ちを持ってやっていただければというふうに思います。よろしくお願いをしときます。

それと、冒頭に申し上げましたが、このことについて教育委員会も認識を新たにして、盆踊りのリーフレット作成やら、学校、公的施設への配付ができるように取組をしていただきたい。そうすることでこの盆踊りの意義、意味というものが分かってきます。地域に根差した意味というものが分かってきますので、これを知ることによって、やはり地元の子供たちが少し熱意を持ってくるというようなところになってくるだろうというふうに思いますから、まあ、明日、あさってどうこうという問題じゃありませんが、やはりこれはずっと長い目で見てやっていかなければ根づいてきませんので、そこら辺は教育委員会として、文化財課として、継承されている方々と協議をしながら、そしてまた、手厚い支援策をしながらやっていかなければ、せっかく認定され、ユネスコにまで登録ができるわけですから、そこら辺も今後、大きな課題だというふうに思っておりますのでよろしく取組をお願いしておきます。

それと、市長に、必要に応じては市長ということで通告をしておりましたので、市長のほうに1点だけお尋ねいたします。

1回質問をいたしました、対馬島郷土芸能発表大会ということで、29回で今終わっております。なかなか、これも人材不足、高齢化が進んでなかなか先に進まないということで29回で一旦止まってるわけですが、これをこの盆踊りの認定に伴い、今後どのようにこの大会をしていったらいいのか、また市の支援策として何かあるのか、そこら辺を1点だけお尋ねいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 確かに、この郷土芸能保存会の大会は29回で、今現在終わっておりま

す。

ただ、私といたしましても、この大会をぜひ今後また再び行ってほしいということで、この芸能大会の事務局のほうにも会長さんのほうにも、お願いもしております。

そういうところで、今、議員おっしゃられるように、この盆踊りのほうが、申請が今されているというようなことでありますので、市といたしましても、できる限りの協力は惜しまないつもりであります。今後とも、もしこの盆踊保存会のほう、そしてまた郷土芸能保存会のほうが合同でのそういった大会が開催できれば幸いかなというふうに考えております。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） どうもありがとうございます。

この盆踊りも郷土芸能発表大会の折には、出展をされて踊っておられました。

そういうことで、教育委員会文化財課だけでなく、行政のほうも、こうなって観光の拠点になってくるわけですから、そこら辺にも力を入れて横、縦のつながりを持って進めていただきたいというふうに思います。

私のほう、時間になりましたので、あと初村議員のほうにバトンを渡します。

ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） 関連質問に入ります。

新政会、14番、初村久藏君。

すいません、登壇してお願いします。

○議員（14番 初村 久藏君） 登壇するの。

○議長（小川 廣康君） はい、一般質問席がないですので、登壇してお願いいたします。最初の分だけ。

○議員（14番 初村 久藏君） 新政会の初村久藏です。

同僚の春田議員の関連質問をいたしたいと思います。

第2次対馬市総合計画について、春田議員のほうから大きな3点ほど質問がありました。

私は、4点目の自然と暮らしが共存する対馬ふるさとづくりについて質問をしてみたいと思います。

豊かな自然環境を取り戻すための有害鳥獣対策について。

イノシシ、鹿、森林、農地への被害が深刻であり、生態系への影響が甚大であります。駆除活動について、今後の仕組みづくりについてお伺いをいたします。

以上です。また議席より申したいと思います。